



イーソル株式会社 2026年12月期 第2四半期決算説明資料

2026年 8月10日

Agenda

1. 2026年12月期 第2四半期決算概要
2. 最近のプレスから
3. 会社概要

2026年12月期 第2四半期決算概要

今期計画の概要（2026年2月13日発表）

過去最高の売上高であった2025年をさらに上回る増収の計画

- 組込みソフトウェア事業の継続的な拡大による増収／増益
- 組込みソフトウェア製品の拡大と、エンジニアリングサービスの利益率向上により、利益率の向上
- 先進的な研究開発に対する支援としてのNEDO*からの助成金収入を計画(営業外収益)

*国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

(百万円)

	2025年	2026年 (計画)	増減	増減率	上期	下期
売上高	12,129	14,731	+2,601	+21.4%	6,575	8,155
営業利益	815	1,093	+278	+34.1%	229	864
経常利益	863	1,199	+335	+38.9%	298	901
当期純利益	598	824	+225	+37.8%	201	622

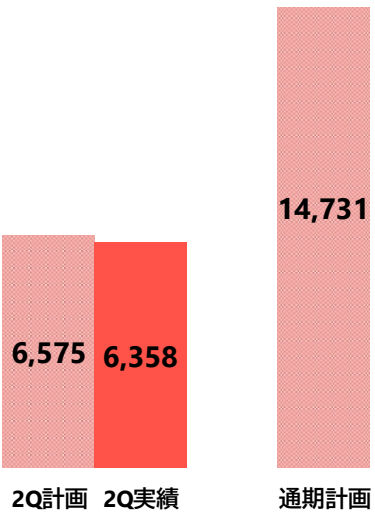
決算の概要(計画値の進捗)

売上高は、やや計画を下回りましたが、利益については、組込みソフトウェア製品の伸長などにより計画達成となりました。

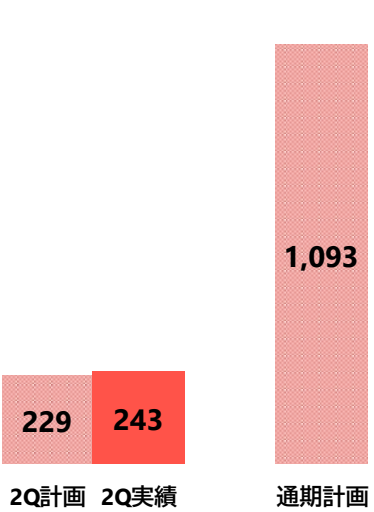
(達成率につきましては、本日開示の「業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」をご参照ください。)

科目	2026年第2四半期		△	達成率
	計画	実績		
売上高	6,575	6,358	▲217	96.7%
営業利益	229	243	+14	106.2%
経常利益	298	320	+21	107.4%
当期純利益	201	279	+77	138.5%

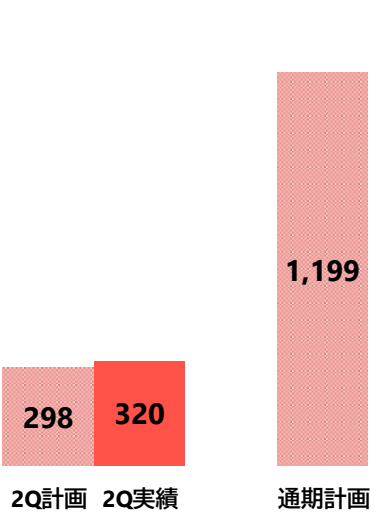
売上高



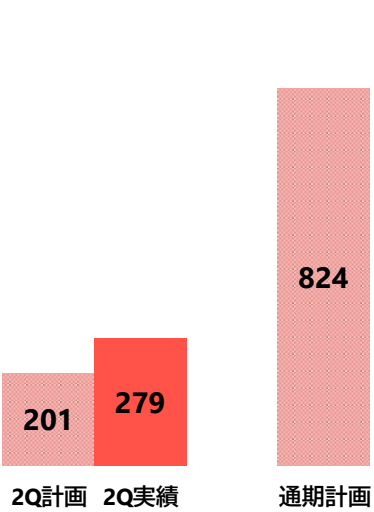
営業利益



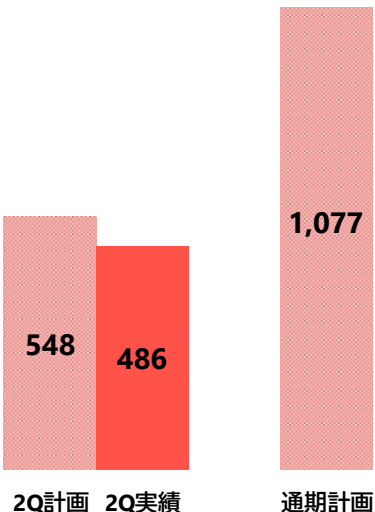
経常利益



当期純利益



開発投資



決算の概要(前年同期比)

組込みソフトウェア事業が二桁の増収となり、特に、組込みソフトウェア製品の増収により、二桁の増益となりました。

先進的な研究開発に対する支援としてのNEDOからの助成金収入を営業外収益に計上しました。

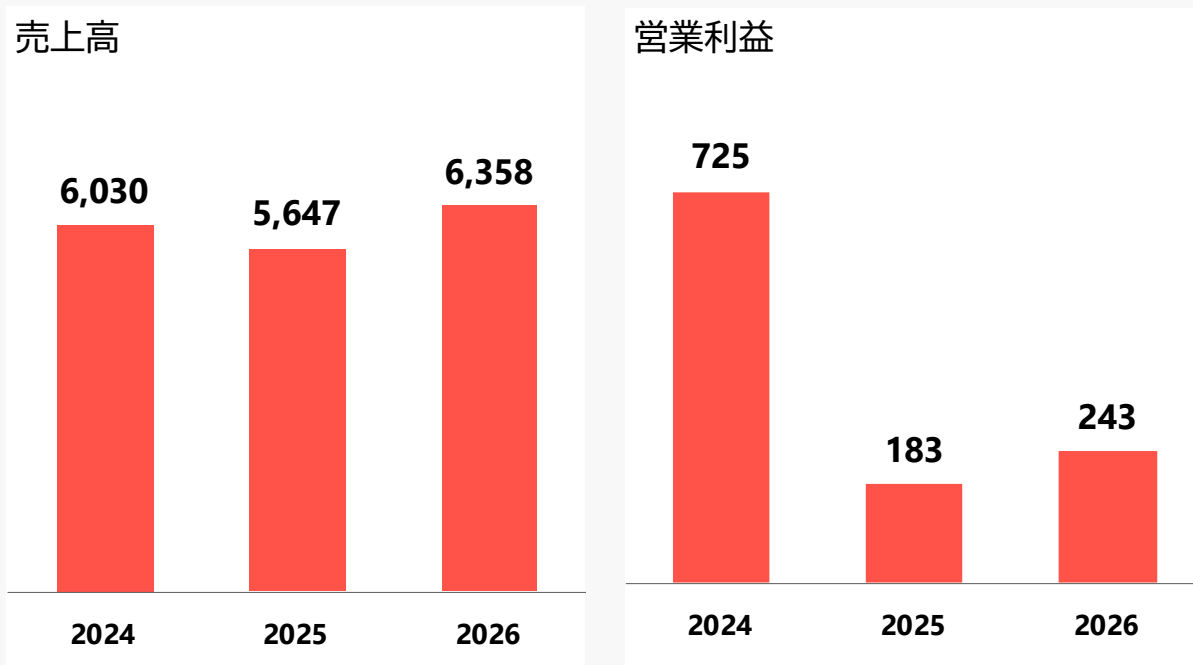
(百万円)				
	2025年 第2四半期	2026年 第2四半期	増減額	増減率
売上高	5,647	6,358	+710	+12.6%
売上原価	4,023	4,436	+412	+10.3%
リビジョンアップ	128	178	+50	+39.6%
売上総利益	1,623	1,921	+297	+18.3%
販売費及び一般管理費	1,440	1,678	+237	+16.5%
研究開発費	225	308	+82	+36.8%
営業利益	183	243	+60	+32.8%
経常利益	217	320	+102	+47.4%
当期純利益	139	279	+140	+100.4%

(百万円)				
セグメント別	2025年 第2四半期	2026年 第2四半期	増減額	増減率
組込みソフトウェア事業	5,380	6,159	+778	+14.5%
組込みソフトウェア製品	715	1,242	+527	+73.7%
エンジニアリングサービス	4,665	4,916	+250	+5.4%
センシングソリューション事業	266	198	▲67	▲25.4%

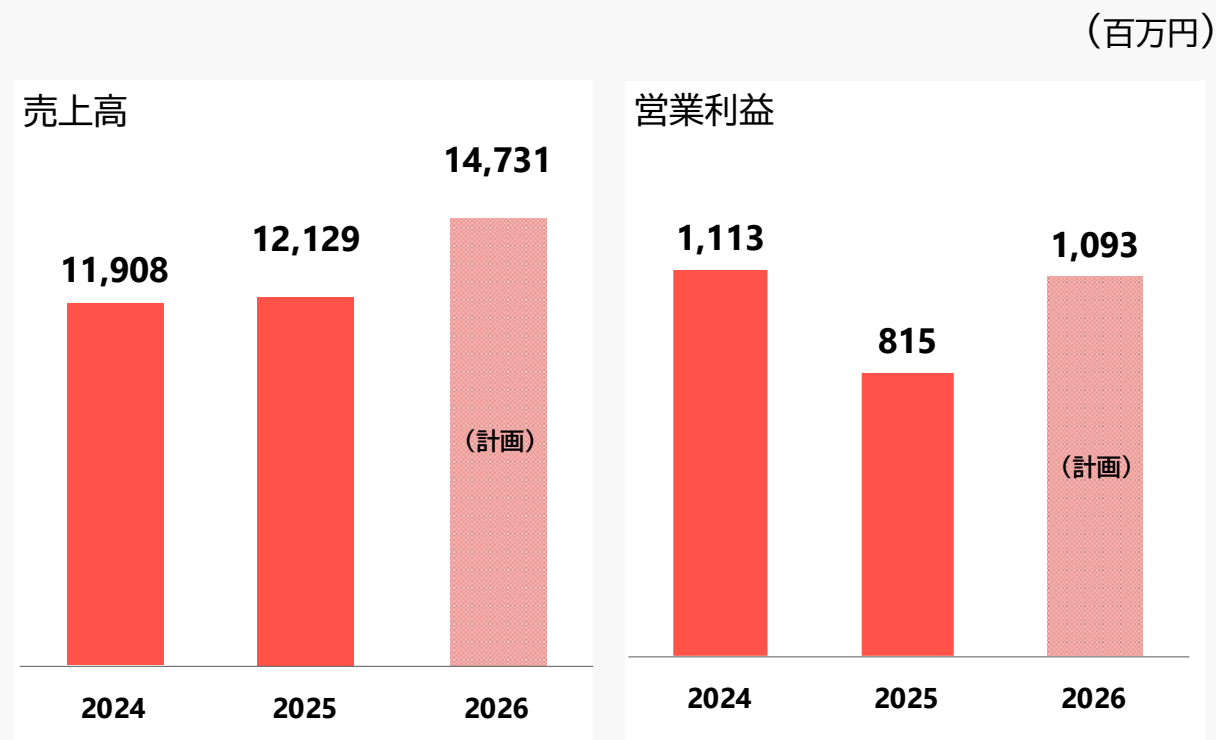
(百万円)				
セグメント別	2025年 第2四半期	2026年 第2四半期	増減額	増減率
組込みソフトウェア事業	194	278	+83	+43.2%
センシングソリューション事業	▲11	▲34	▲23	-

決算の概要(業績の推移)

連続増収と安定的な黒字を確保



2Q



通期

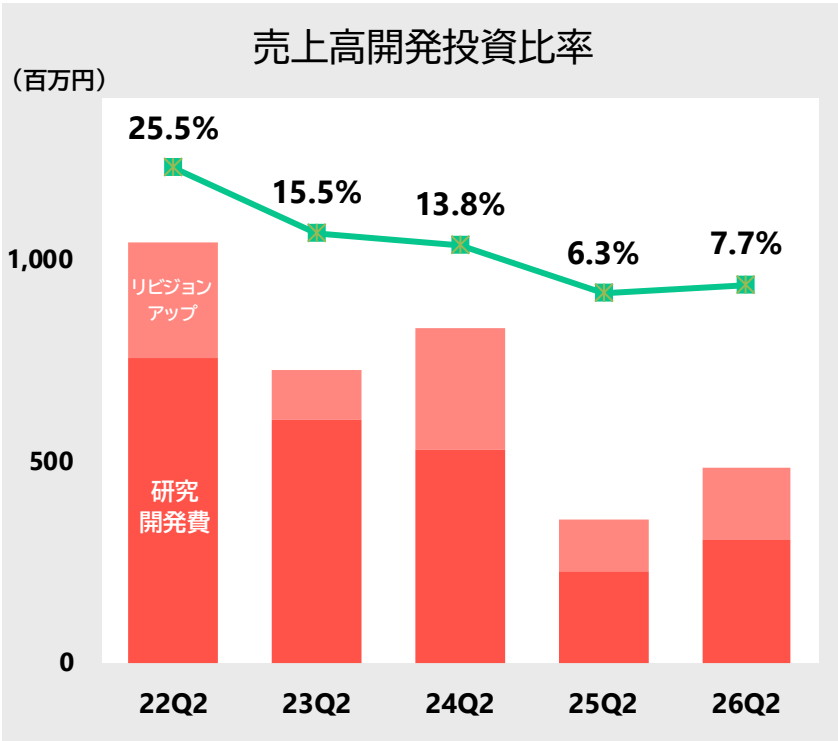
開発投資の状況(前年同期比)

開発投資に加えて、戦略的なパートナーであるユーザーからのファンディング的エンジニアリングサービスによって、さらなる製品力の向上を目指します。

(百万円)

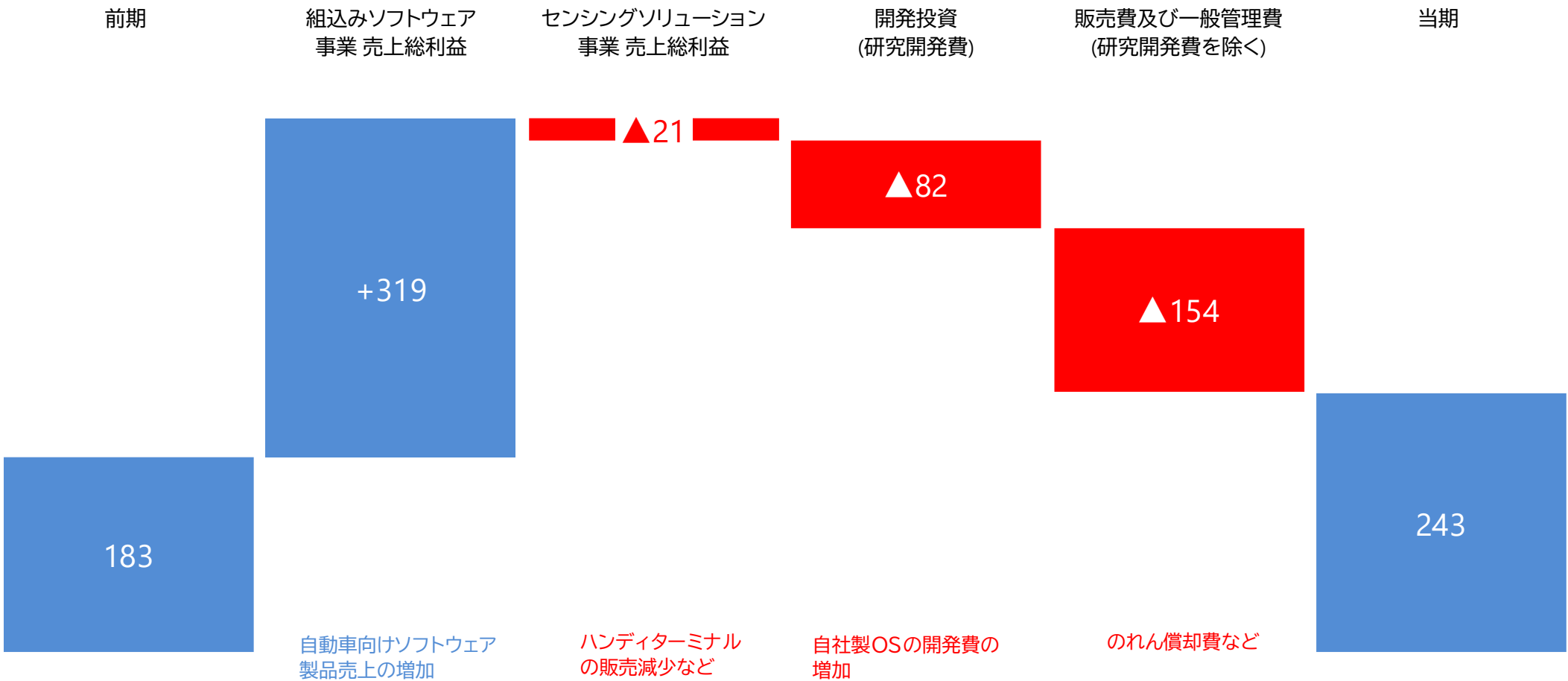
	2025年 第2四半期	2026年 第2四半期	増減額	増減率
売上高	5,647	6,358	+710	+12.6%
開発投資額	353	486	+133	+37.8%
研究開発費	225	308	+82	+36.8%
リビジョンアップ	128	178	+50	+39.6%
売上高開発投資比率	6.3%	7.7%	-	-

研究開発費	- 新規製品の開発に対する投資 - 販売費に計上
リビジョンアップ	- 既存製品のバージョンアップに対する投資 - 売上原価に計上



営業利益の増減要因(前年同期比)

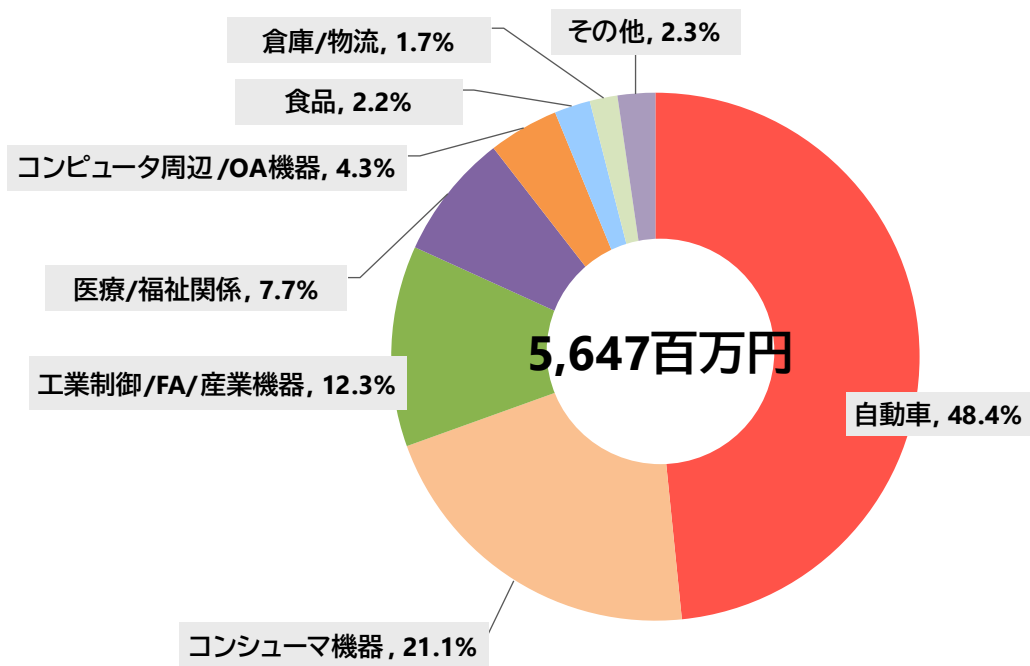
(百万円)



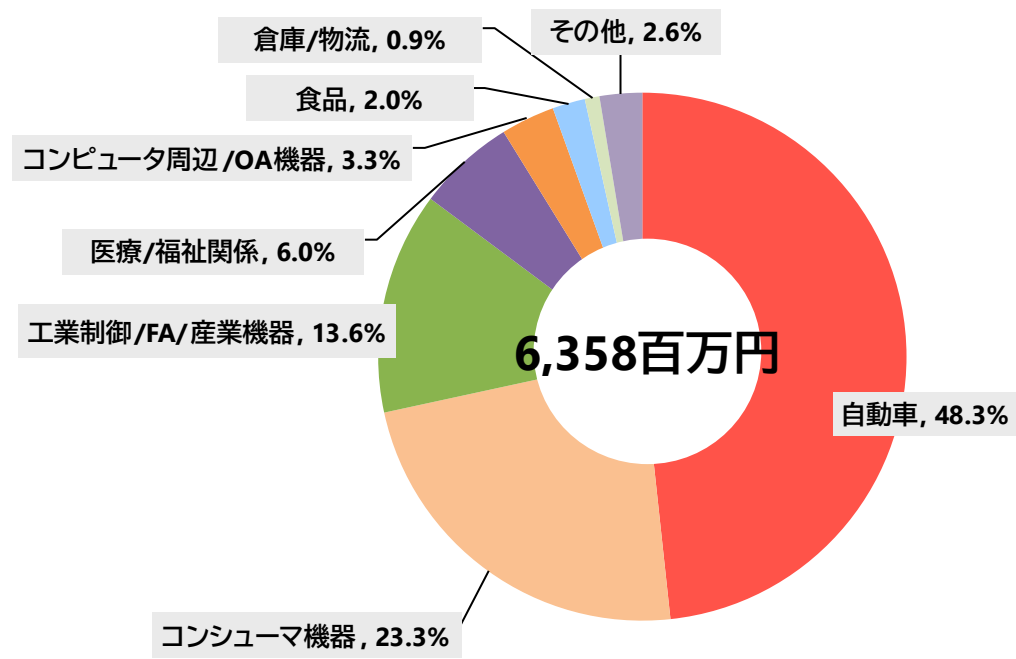
得意先セクター別の売上割合(前年同期比)

安定的に自動車セクター約50%、残り50%を幅広いセクターで構成

当社技術は幅広いセクターで使用されています。
主要取引先は、当社サイトをご覧ください。
<https://www.esol.co.jp/company/profile.html>



2025年 第2四半期



2026年 第2四半期

株主還元

当面は従来方針を継続しますが、2025年4月30日公表の中期経営計画にそって、見直しを検討中

- 本年度の配当政策としては財務基盤の安定化、安定的配当、内部留保による企業価値向上施策への投資を基本とする
- 配当額は前年度同額を計画
- 投資の効果を踏まえ、将来的に配当を強化

	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
1株当たり配当金	5.50円	5.50円	5.50円	5.50円	5.50円
(うち中間配当金)	(1.50円)	(1.50円)	(1.50円)	(1.50円)	(1.50円)
配当性向	-	82.1%	12.0%	17.6%	13.1%

計画

最近のプレスから

サイバートラスト社とフィジカルAI時代に向けた日本発SDx開発基盤の共同開発で合意

2026年7月10日発表

サイバートラスト社とロボットや機械を自律的に制御するフィジカルAI時代の産業・モビリティ・ロボティクス分野に向けたミッションクリティカルな処理が可能な SDx開発基盤*とエンジニアリングサービスの提供を目指し、協業する基本合意書を締結しました。



* SDx開発基盤とは:「SDx(Software Defined everything / ソフトウェア定義)」は、ハードウェア中心のモノづくりからソフトウェア主導の価値創造へ移行する次世代のシステム開発の概念を指し、OS技術の中核に、仮想化技術を用いてハードウェアとソフトウェアを分離し、ITインフラや自動車などのハードウェア機能を、ソフトウェア主導で柔軟に定義・制御・開発するためのプラットフォームです。自動車(SDV)からロボット制御まで幅広い領域で採用が予測され、開発の迅速化や運用効率の向上をもたらします。

PR資料 → https://www.esol.co.jp/press/press_864.html

参考資料

私たちは世界の人々のための持続可能な
サイバーフィジカル社会を実現する
ワールドクラスの
フルスタックエンジニアリング企業です。

中期経営計画 eSOL Reborn 2030 - Strategic Business Plan

2025年4月30日発表

- 目標実現のための11の戦略（Core Strategies）を設定
- 2030年までの財務目標を設定
- 投資の効果を踏まえ、段階的に配当を強化



発表説明資料 → <https://ssl4.eir-parts.net/doc/4420/tdnet/2600567/00.pdf>

Top message

■ 世界のサイバーフィジカル社会をFull Stack Engineeringで実現する新時代のOSベンダー

eSOLは、1975年の設立以来、産業機器、医療機器、デジタル家電、航空宇宙、そして車載機器と多くの組込みシステムのソフトウェア開発で実績を重ねてまいりました。

当社の大きな強みの一つはOS技術です。独自OSであるeMCOSは世界でも最も進んだマルチカーネルやユニカーネルというOS技術を導入しています。また、その知見を活かし、特定顧客向けのプラットフォーム開発も数多く手がけてまいりました。また、AUTOSARやROSなどの業界標準技術の仕様策定活動への参画と併せ、関連する技術を用いたプラットフォーム開発も多数行っています。これらの実績と技術知見は、昨今のSDxIによるモノづくりに必要不可欠な要素であり、OSからアプリケーションまでのフルスタックの技術知見は当社の大きなアドバンテージです。特に、その先端を行くSDVの開発において、当社には大きな期待が寄せられています。

近年、ネットワーク技術、クラウドコンピューティングの普及、さらにはAI技術の進化により、サイバー空間がさらに進化しつつあります。コンピューティング技術がより社会に貢献するには、サイバーの空間をフィジカルな物理の空間と融合していくことが必要です。このフィジカルの空間のコンピューティングは、従来、組込みシステムと呼ばれた領域であり、近年ではIoT、エッジなどの言葉も使われますが、eSOLが長年技術を蓄積して来た技術領域です。

このサイバーとフィジカルを繋いだサイバーフィジカルシステム(CPS)による新しい社会の実現に向け、eSOLはFull Stack Engineeringを提供する新時代のOSベンダーとして、モノづくりを行う世界のメーカー様を支え、社会の持続的な発展に貢献してまいります。

Mission

私たちは、革新的なコンピュータテクノロジーによって、市場を創造し、社会を豊かにすることを使命とします。

Vision

私たちは、ワールドクラスのフルスタックエンジニアリング企業として世界の人々のためのサイバーフィジカル社会を実現します。

Value

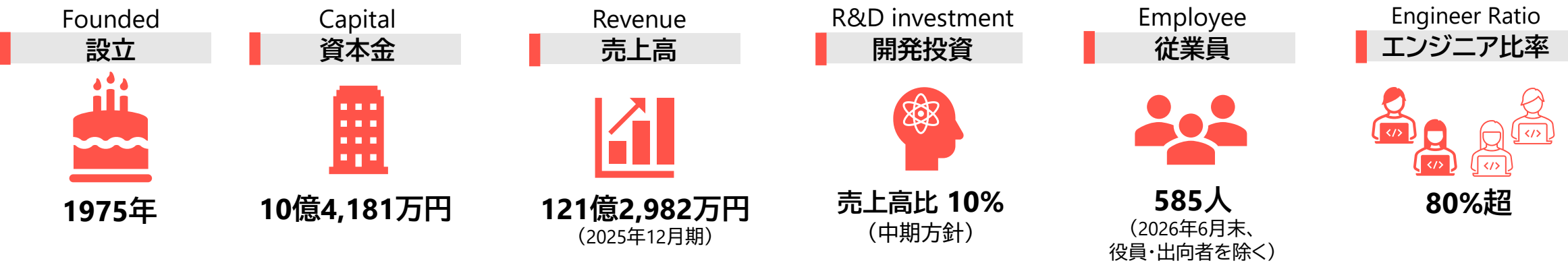
ワールドクラスのフルスタックエンジニアリング技術



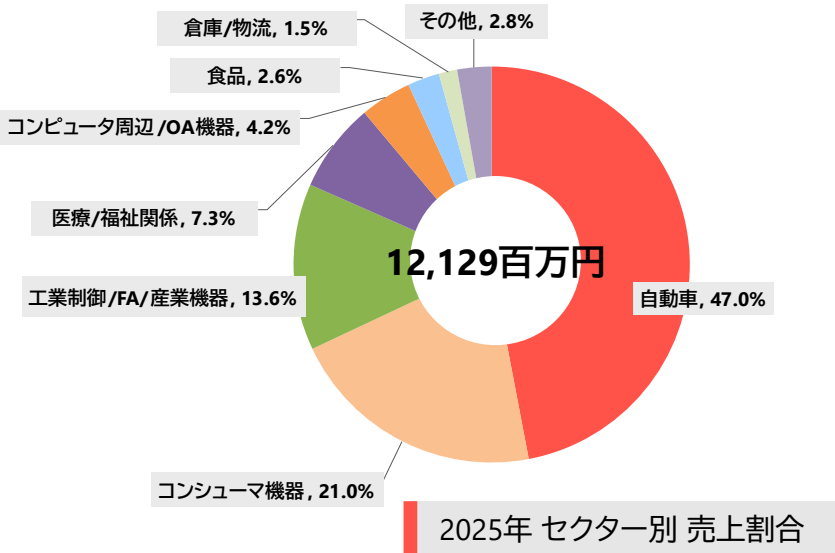
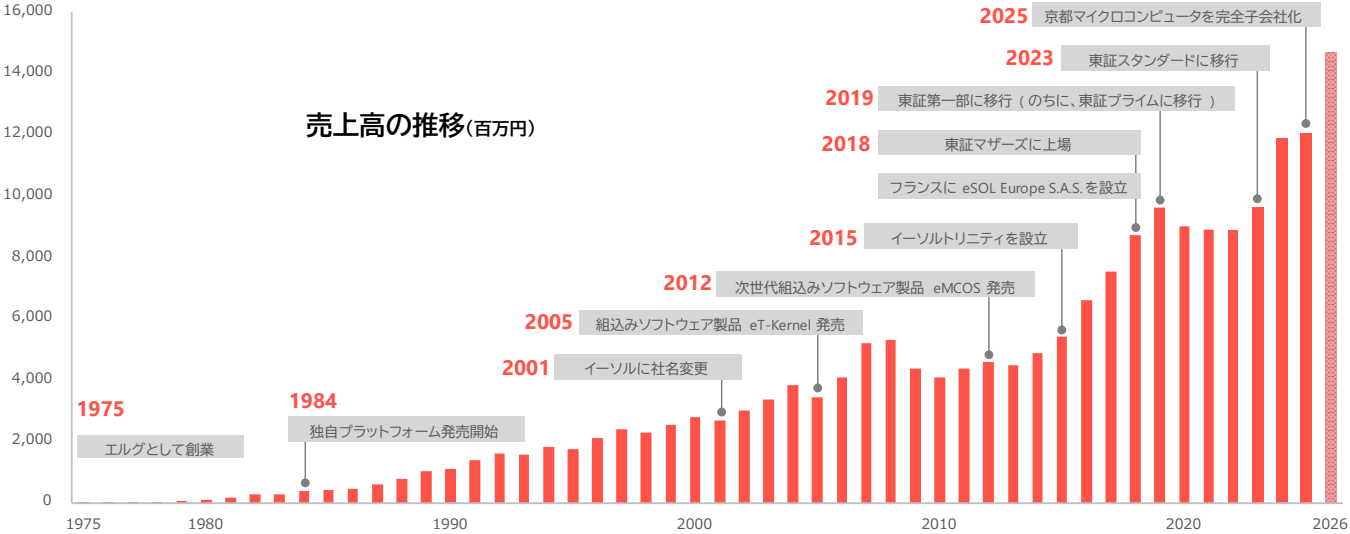
代表取締役社長CEO兼CTO
榎藤 正樹

Company Overview

■ 1975年に創業し、変化の激しいソフトウェア業界で持続的に成長



東証スタンダード(証券コード: 4420)



eSOL Group

■ eSOLグループでお客様のシステム開発を包括的に支援



《国内拠点》

イーソル株式会社



(eSOL Co.,Ltd.)

設立：1975年 5月

事業拠点：東京本社、大阪、名古屋、さいたま

イーソルトリニティ株式会社



(eSOL TRINITY Co.,Ltd.)

設立：2015年 3月

事業拠点：東京本社

事業内容：ハイエンド組込み機器開発支援ツール販売、コンサルテーション、プロフェッショナルサービス、エンジニア教育

京都マイクロコンピュータ株式会社



(Kyoto Microcomputer Co.,Ltd.)

設立：1985年4月

事業拠点：京都本社、東京

事業内容：開発環境を中心とした、コンピュータ、ソフトウェア及びハードウェア開発、販売

《海外拠点》

eSOL Europe S.A.S

設立：2018年 3月

事業拠点：フランス パリ本社

事業内容：欧州における顧客の技術開発、技術支援、マーケティング、サポート



本資料の取扱いについて

本資料には、将来の見通しに関する内容が含まれておりますが、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成されたものであり、リスクや不確実性などを含むため、将来の経営成績などの結果を保証するものではありません。

したがって、実際の結果は、環境の変化などにより、本資料に記載された将来の見通しと大きく異なる可能性があります。

上記のリスクや不確実性には、国内外の経済状況や当社グループの関連する業界動向などの要因が含まれますが、これらに限られるものではありません。

今後、新しい情報・事象の発生などがあつた場合においても、当社グループは、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報について、更新・改訂などを行う義務を負うものではありません。

また、本資料に含まれる当社グループ以外に関する情報は、公開情報などから引用したものであり、当社グループは当該情報の正確性、適切性などを保証するものではありません。

問い合わせ先

イーソル株式会社
社長室 IR担当

e-mail : esol-ir@esol.co.jp

WEB : <https://www.esol.co.jp/>



Challenge with Passion